

12. 地質相談所 —なんでも、お気軽に—

地質相談所がどんなことをしている所かご紹介いたします。

地質相談所は地球に関する色々な質問にお答えいたします。杓子定規に言えば、「地質調査所で行っている研究成果」を「社会に還元する」役割を担当しているということですが、地学のごく一般的な質問にもお答えしております。活断層の位置や地学用語の英語訳を電話でたずねてこられた方もいます。

地質相談所で手に負えない質問に対しては、もっとも適当と思われる研究者を紹介しております。

また、地質相談所は地質調査所内の各研究部課に寄せられた問い合わせを取りまとめております。相談所だけでお答えしているのは全体の約4割くらいで、多くは各研究者が直接お答えしています。

相談の内容は、社会の動きや経済状況などをたいへん良く反映しております。それらの例を示しておりますので、表や図の説明をご覧ください。

インターネット経由のE-mailによる相談にも積極的に対応していく体勢が出来ておりますのでご利用ください。

<文責：佐藤岱生>

各地の地質相談窓口

・北海道支所

〒060 札幌市北区北8条西2丁目1-1

札幌第1合同庁舎

Tel. 011-709-1811

・大阪地域地質センター

〒540 大阪市中央区大手前4丁目1-67

大阪合同庁舎第2号館別館

Tel. 06-941-5377

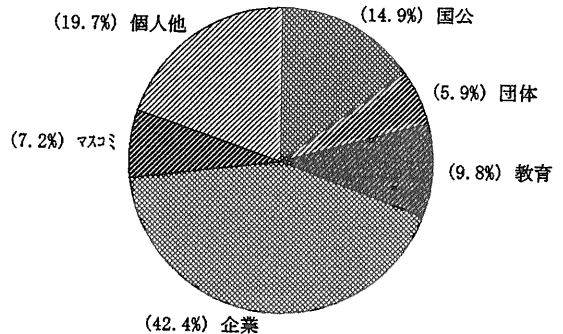
・本所

〒305 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質相談所

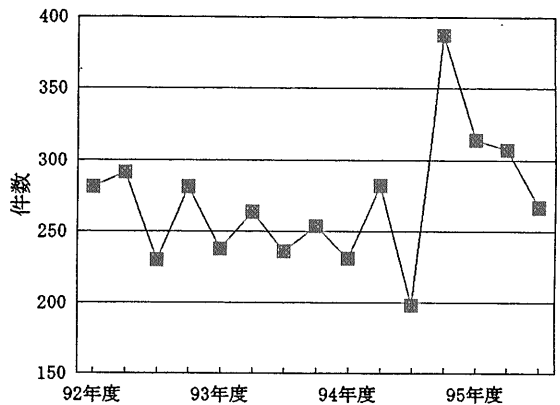
Tel. 0298-54-3540 Fax. 0298-54-3569

E-mail soudan@gsjnet.gsj.go.jp



第1図 相談者の割合

「企業」が4割強、「個人」が約2割などである。「企業」には地質コンサルタント・建設業者・不動産業者・貿易業者などが含まれる。「国公」は国や地方公共団体の機関である。ただし博物館などは「教育」に含めた。「団体」は金属鉱業事業団などの特殊法人や財団法人などである。「マスコミ」は新聞社・テレビ番組制作会社などを含む。



第2図 四半期ごとの相談件数の推移

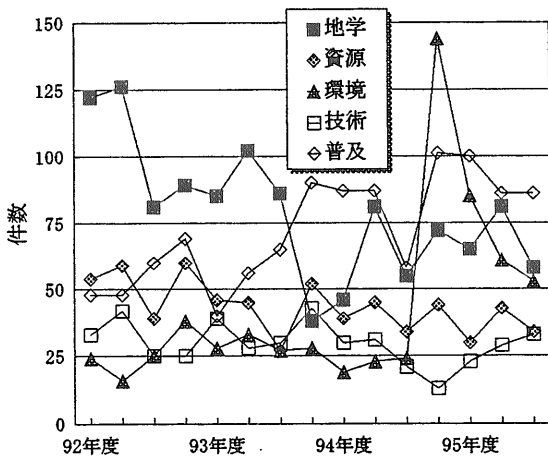
1994年度の第4四半期は兵庫県南部地震ショックによる相談件数の増加を示す。この時はその前の期の2倍近くに増加した。また、相談所の統計に含まれなかった相談も相当件数あった。一般に第1(4-6月)と第3四半期(10月-12月)には相談が減少し、第2(7-9月)と第4四半期(1-3月)には増加する傾向がある。

第1表 1992年4月から1995年12月までの大分野別相談件数

月	1992年度				1993年度				1994年度				1995年度			
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	
地学	122	126	81	89	85	102	86	38	46	81	55	72	65	81	58	
資源	54	59	39	60	46	45	27	52	39	45	34	44	30	43	34	
環境	24	16	25	38	28	33	27	28	19	23	24	144	85	61	53	
技術	33	42	25	25	39	28	30	43	30	31	21	13	23	29	33	
普及	48	48	60	69	40	56	65	90	87	87	58	101	100	86	86	
ほか	0	0	0	0	0	0	1	3	10	15	6	13	11	7	3	
計	281	291	230	281	238	264	236	254	231	282	198	387	314	307	267	

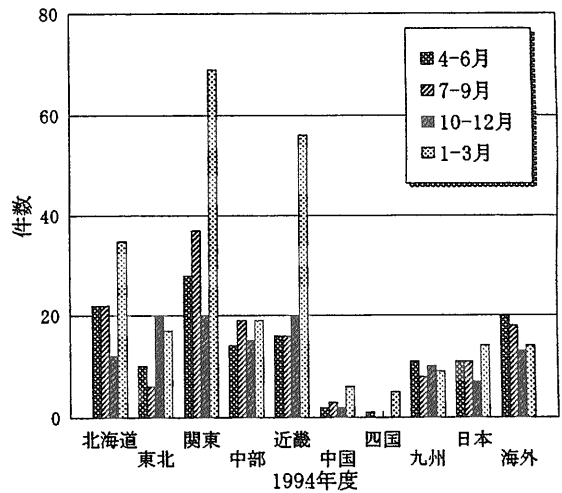
	1992年度	1993年度	1994年度	1995年度	1992.4-95.12 合計 百分比	
地学	418	311	254	204	1187	29.2
資源	212	170	162	107	651	16.0
環境	103	116	210	199	628	15.5
技術	125	140	95	85	445	11.0
普及	225	251	333	272	1081	26.6
ほか	0	4	43	21	68	1.7
計	1083	992	1098	888	4061	100.0

「地学」には地域地質・海洋地質・地学一般など、「資源」には金属・非金属・採石・石油・石炭・地熱など、「環境」には活断層・地盤・地震・地球環境など、「技術」には化学分析法・各種測定法・地形測量など、「普及」は地質調査所で出版している地質図類や地学関係の学会誌の文献に関する相談が含まれる。



第3図 分野別の相談件数の推移

1992年4月から1995年12月まで(第1表参照)。1994年度第4四半期(1995年1月-3月)に「環境」が激増し、その後ゆるやかに減少している。これは「環境」の中に活断層・地盤・地震などが含まれているからで、兵庫県南部地震の影響である。北海道南西沖地震の起こった1993年7月などにはこのような傾向はみられない。でこぼこを埋めて考えると、「地学」「資源」がしだいに減少し「普及」が増加していく傾向が見られる。



第4図 1994年度の地域別件数の四半期ごとの推移

「関東」と「近畿」の第4四半期(1-3月)が突出している。これは、兵庫県南部地震が起こり、第4四半期の件数が急増したが(第2図参照)、増加は近畿地方だけでなく関東地方でも大きかったことを示している。「北海道」「中国」「四国」も率にすると5割から数倍の増加が示されている。